

今回のトレーニングドッグ



ゆき

Training

セラピードッグへの道

セラピードッグの
基本トレーニング

今回のテーマ: セラピー練習[ベッドマナー]

やってみよう!
Let's try!!

目標 ベッドの上で寝ている姿勢の利用者様に寄り添う。
利用者様になでられてもじっとできる。

Step1

ベッドに近づく



ハンドターゲットでベッドを示し、ベッドに近づくことができればほめます。

Step2

ベッドに飛び乗る



ベッドの足元側(枕元の反対側)に、いつも使っている座布団など、わかりやすい目印を置き、そこをハンドターゲットで示します。その場所に飛び乗ることができたら「ごほび」をあげます。

Step3

ほふく前進



「伏せ」の号令と同様に、ハンドターゲットをドッグの鼻先から斜め下のシーツに向かって動かし、手をシーツに付けた状態で枕元の方面へ、水平に動かします。また、頭の上からさわられたり、「ほふく前進」するように、お腹をシーツにつけたままズルズルと前進できたらほめます。

Step4

利用者様役
いる状態で練習



ベッドに利用者様役が寝ている状態でStep2・3を練習します。ドッグが利用者様役の顔の近くまでほふく前進し、目を合わせられたらほめます。また、頭の上からさわられたり、耳をひばられたり、いろいろな方で全身を触られても動かさず、じっとすることができたらほめます。

☆トレーニング☆

ドッグセラピー事業部のセラピードッグとセラピストは、毎週1回、笠木恵子先生のトレーニングを受けています。

笠木恵子先生
My Dog Training School 主宰
家庭犬訓練士

※難しいので、1歩でも前進できたらほめましょう。また、手を動かすスピードが速すぎると、ドッグのお尻が浮いてしまいがちです。手を動かす速さは、ドッグの様子を見ながら調整してください。



Miruru

～ミルル天国へ～

2016年9月4日(日)23:00にセラピードッグのミルルが永眠しました。
16歳9か月でした。
長い間ミルルを温かく見守り、
応援していただいたみなさまには深く感謝いたします。

〈お問い合わせ〉

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

http://www.therapydog.jp



燦々 Sansan

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部 会報誌

Vol. 24 / 秋号
2016年

Contents

- オレンジカフェにおける
集団ドッグセラピーの役割
- セラピードッグの育成[社会化期]
- 集団ドッグセラピーの効果検証
- ドッグセラピーの現場から
- ドッグセラピー交流会
- トレーニング

オレンジカフェ(認知症カフェ)における 集団ドッグセラピーの役割

ひと月2回の集団ドッグセラピーが地域にもたらす笑顔の輪



特別養護老人ホーム「いきがいライフたかまつ(社会福祉法人義風会)」は、2014年11月よりオレンジカフェを運営しています。これは岡山市の「認知症施策の指針(岡山市版オレンジプラン)」に基づく民間委託事業です。オレンジカフェとは、地域の人々と、認知症および予備軍の高齢者様、そのご家族がともに集えるカフェのこと。当初、市内では2施設のみの取り組みでした。

ドッグセラピー事業部は2014年のスタート時より、このオレンジカフェで集団ドッグセラピーを実施(月2回・各20分程度)。経験を積み上げ、オレンジカフェにおける集団ドッグセラピーの手法を確立しようと努めています。そして約2年を経たいま、地域のみなさんや利用者様のご家族、介護福祉スタッフが、ドッグセラピーに対して何を望んでおられるのか、みなさんの声・要望を取材しました。

●ひまわりの会(備中高松地域のボランティア団体)

最初、話をされなかった高齢者様ご自分から話して下さるようになられたり、服装がおしゃれになられたり、お迎えが必要だった方が一人で来られるようになったりする変化を拝見して「この活動は、とても役に立っている」と強く感じています。

●介護現場の声

ワンちゃんに会った瞬間、利用者のみなさんが何とも言えない「いい笑顔」をされます。利用者様同士の顔なじみもでき、会話のきっかけにもなっています。ご家族とも「今日は楽しかったね」と会話ができることで、ご家族との時間も豊かになられているようです。ご家族同士の「横のつながり」ができるメリットもあります。私たちヘルパーとしても、地域の方に顔を覚えていただける好機。食事のことなど、小さなことでも何でも気軽に相談してほしいと思います。メンバーが定着してきているので、新しい方にも広がってほしいと思います。(ホームヘルパー)

利用者様の表情がいいです。施設に来ることに抵抗がある方も「1時間のお茶なら」と来てくださり、外出のきっかけになっています。デイサービスなどの利用につながったケースもあります。(ケアマネジャー)

在宅の高齢者様に外出していただくことは、本当に難しいんです。施設がどんなところなのか想像しにくいそうで、「施設はお年寄りがいなくて」と言って拒否されがち。それが「ワンちゃんに会いたい」という理由で来ていただけます。ドッグのインパクトが強いのか、名前も覚えておら

れます。私たち人間にできないことをドッグがしてくれていると感じています。私たちの活動をもっと知ってもらいたいと思います。(ケアマネジャー)

私は利用者様をお迎えに行くのですが、以前は拒否されていた方が、ご自分で着替えて出かける用意をされて待つてくださるようになりました。普段は表情が出ない方も、ドッグは楽しみであり、いきがい。こちらに来られることによって、これまで見えなかった普段の生活も見えてきます。オレンジカフェに来られて精神が落ち着かれた方もいらっしゃいます。「定期的」に外出する、この「定期的」がいいようです。(支援センター相談員)

●ご家族様の声

普段は短期記憶がなくなっている祖母ですが、犬のことは記憶に残っているようです。祖母は犬が大好きなんです。また、私と同じようにご家族を連れて来られている方と情報の共有ができています。このペースで続けてほしいと思います。



いきがいライフたかまつ 「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」 ドッグセラピー(集団)をご活用ください! <毎月2回>

開催日時 毎月第2・4水曜 13時~15時
※ドッグセラピーは13時30分頃から20分程度

喫茶協力 「ひまわりの会」(高松地域ボランティア団体)
約30名のボランティア会員が交替でカフェを運営してくださっています(1回10数人)。お菓子は、高齢者様のお好みや安全などに配慮し、当施設が選んでいます。

メニュー ドリンク(お菓子付き)各100円
※コーヒ-、紅茶、玉露ほか

席数 24席

場所 いきがいライフたかまつ 1階・地域交流ホール
(岡山市北区立田586-1/TEL.086-287-8880)

参加申し込み先 介護高齢者ドッグセラピー普及協会
E-mail info@therapydog.jp
※見学、ご家族の付き添いも遠慮なくご連絡ください。

セラピードッグの育成について

子犬の社会化

子犬が成長する過程に色々な発達段階があります。その中に「社会化期」と呼ばれる時期があり、あらゆる環境や事柄に慣らし、様々な経験を与え、その子犬に合った「ライフスタイル」を学ばせます。

それは、子犬の性格を形成する上で非常に重要な時期であり、セラピードッグとしての可能性が無限大に引き出される時期でもあります。

ここで気をつけたい点は、ドッグには、それぞれ個性があるということ。好奇心が旺盛なのか、臆病なのか、その子の個性によって、慣れるまでに要する時間が異なります。また、保護施設からレスキューした子の場合、過去の様々な経験などによってトラウマを持っていることもあります。「社会化期」には「人間といると、こんなに楽しい」と感じられるように、セラピー活動が楽しくなるように、個性を見極めながら育てています。

社会化訓練における注意点

- ▶ 徐々に慣らしていく。
- ▶ 最初はドッグが近寄っていくのを待つ。
- ▶ ドッグが興味を持ったタイミングを大切にします。
- ▶ 最初はできることを伸ばす。
- ▶ カーミングシグナルをしっかり読んで無理をしない。
- ▶ トレーニングは短時間に集中して、根気よく行う。
- ▶ できたときにしっかりほめる。
- ▶ ほめるタイミングを間違えるとドッグは何をしたらいいかわからなくなってしまう。
- ▶ 最初は慣れた場所で訓練する。慣れてきたら場所を変え、うるさい場所、フードコートのような誘惑の多い場所など、少しずつハードルを上げていく。

【活動報告】

第48回中国地区老人福祉施設研修大会 in 岡山 認知症高齢者に対して ドッグセラピーは有効なケアシステムとなり得る

2016年8月10日(水)、「第48回中国地区老人福祉施設研修大会」でドッグセラピー事業部のドッグセラピストで介護福祉士の三宅慶子が「ドッグセラピーの日常生活意欲向上効果/集団ドッグセラピーの効果検証について」と題した研究発表を行ないました。

ドッグセラピー事業部は今回、「セラピードッグが認知症の利用者様の興味の対象となり得るか」をテーマに、認知症の利用者様5名に集団ドッグセラピーを週1回(各30分間)、全12回実施し、介護者(ご家族)による5段階評価で、日常生活意欲を数量化・点数化して推移を調査しました。また、「意欲」「表情」「会話」「行動」の4項目において、ドッグセラピー後の様子と、普段の様子の変化を介護者(ご家族)に評価していただきました。

その結果、セラピードッグが認知症高齢者の興味の対象となること、そして、興味を得ることが認知症高齢者様の日常生活意欲の向上に作用することがわかったことを報告しました。加えて「表情」「会話」の項目は早期に改善が見られ、介護者(ご家族)の精神的な負担軽減につながったというアンケート結果も報告しました。

発表後、元川崎医療短期大学教授の内田富美江先生から「綿密な研究計画に沿って実施されていること、数量化・点数化により客観性と再現性が担保されていることが素晴らしい」と高く評価していただきました。



column

コラム ドッグセラピーの現場から

vol. 9

ドッグが興味の対象となり安心感を提供

個別ドッグセラピーの目的の中に、利用者様の残存機能の維持や回復があります。セラピードッグとの間に「ある種の関係」が結ばれたとき、動かないと思われていた利用者様の手がドッグをなでたり、無表情の利用者様が言葉を発して笑顔になられたり、覚えられないはずなのにドッグの名前を覚えていたりするという現象が起こります。

このことから、私たちは「興味の対象を失うことが原因で、認知症高齢者の記憶力や日常生活意欲は低下する」傾向があるのではないかと考えています。すなわち、興味の対象であるセラピードッグを介在することにより、利用者様の意欲は向上し、自発行動が促せるのではないかと仮説を立てて、研究を進めています。

さらに、その応用として「いきがい療法」と「ターミナルケア」があります。認知症が進行して寝たきり状態になり、自力で車椅子に移乗できなくなった利用者様のために、ドッグがベッドの上で寄り添います。そうすることで利用者様の起き上がりを促進し、ドッグの名前を記憶して呼ぶ、手を伸ばしてドッグをなでるなど、寝たきりにしない工夫につながります。同時に心の安心感も提供しています。

対象症例

- 自力では車椅子に乗り移れない方
- なおかつ暴言・介護拒否・意欲低下が見られる方
- ターミナルケア

期待できる効果

動作	リハビリ効果
ドッグをなでる	肩関節可動域訓練 手の回外運動 起き上がり・寝返り促進
ドッグの名前を呼ぶ	言語・発語訓練
ドッグの名前を記憶する	短期・長期記憶の維持

注意点

ドッグがいきなり近づくと利用者様が驚かれるので、まずは利用者様の足元近くにドッグが飛び乗ります。そして、ほふく前進の要領で利用者様の顔のそばに近寄り、目を合わせます。毛が抜けやすいのでシーツの上にバスタオルを敷いたり、専用シーツを持って行ったりして、衛生面に細心の注意を払っています。ドッグに服を着せることもあります。

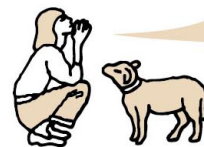
ドッグに必要なトレーニング

- **ホールディングマナー**
じっとしていることができる。
- **ベッドマナー**
ベッドに上げて静かにしてられる。ほふく前進訓練を受けており、足元から顔の近くまで前進できる。利用者様に恐怖心を与えない訓練。
- **サプライズマナー**
大きな音や突発的なできごとがあっても落ち着いてられる。



第10回ドッグセラピー交流会

平成28年10月9日(日) 13:30～ 会場:老人保健施設「高松アクティブホーム」



ドッグセラピー事業部は「第10回ドッグセラピー交流会」を上記日程で開催。介護職やリハビリ医療職、ボランティア経験者など県外からの参加者を含めて5名での交流会となりました。はじめに、人とドッグとのコミュニケーションに欠かせない「カーミングシグナル」についてトークセッション方式で議論。ドッグが自分の不安や危険を回避するために発するシグナルにどういう意味があるのか、参加者のみなさんからご意見をいただきながら一緒に考えました。

続いて、利用者様を「自発行動」に導くための「個別セラピー」について、座学と実践を交えて講習。最後は、セラピードッグと一緒に「トレーニング」を体験していただきました。参加者のみなさんからは「ドッグのちょっとした表情も見逃さないことが大切だと知りました」「少人数で気軽に質問できてよかったです」などの感想をいただきました。和気あいあいとした雰囲気の中で参加者同士の親交も深まった交流会でした。



Shine

車イスやカートなどを使い、「シャイン」と「ゆき」と一緒にトレーニングの基本を実践。



Yuki